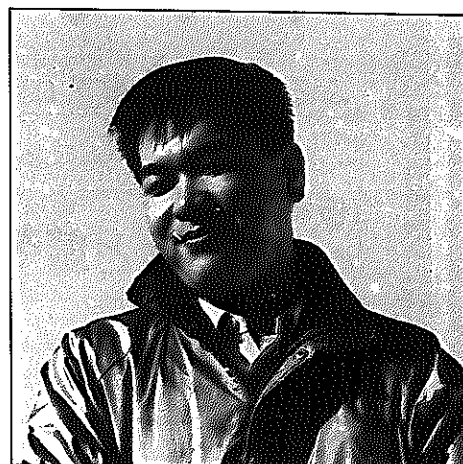


■県青年リーダー養成海外研修

須田 博 樹



すだ・ひろき (南新町・27歳)
社会教育活動に一生懸命取り組む好青年。趣味は音楽観賞と写真。スポーツは野球、スキーが得意。

韓国を訪れて

出発

十月十八日から二十五日まで私は県青年リーダー養成海外研修に参加し、韓国を訪問しました。いよいよ出発の日、新潟会館で壮行会を行った後、新潟空港十三時十分発の大韓航空機に乗り、ソウルへ向かいました。韓国といえば、日本からいちばん近い国です。新潟空港からわずか二時間十分でソウルの金浦空港に着きました。

研修

まず韓国第二の都市、釜山へ向かい、いよいよ韓国での研修がスタートしました。釜山ではまず学生科学館を視察しました。館内には歴史、文化、科学などに関するさまざまな展示物がありました。車の車体を加工し、構造が見えるものに

や、女性が子どもを出産するときの姿、地球儀のモニターテレビなどが印象に残りました。韓国ではこういう施設が十五か所もあるそうです。その夜、釜山の大学生との交流会がありました。驚いたことに私のパートナーの女性は、もう日本人になりきったように、日本語を上手に話せたことでした。この女性は日本語を習う塾に行っているということでした。韓国では日本語を勉強している人がたくさんいるということでした。

三日目は、特急列車でソウルへ向かいました。ソウルではまず韓国青少年団体協議会の施設を訪問しました。韓国では小学校だけが義務教育で、父兄がいちばん喜ぶのは、日本の中学、高校にあたる国民学校に進んだ子どもが青少年活動をするのだそうです。学校によってはボイスアウトとガールスカウトがあり、青少年活動の場となっているそうです。高校、大学でも青少年活動が活発で、その活動は学生中心の青年活動だそうです。

ホームステイ

十月二十一日、いよいよ二泊二日のホームステイです。まず青少年教育センターでホストファミリーと対面しました。自己紹介の後、一人ずつホストの

たちが紹介されました。私のホストの人はペー・サンゴーさんという六十七歳の男性で、息子夫婦など六人家族。社会教育の仕事をしていて、ペーさんは日本語がたいへん上手で、二十年前に九州の熊本にいたことがあるそうです。日本のことについてとても詳しく、社会情勢についてもよく知っていました。ペーさんからはオリンピックスタジアムなど、ソウル市内を案内してもらいました。いちばん楽しかったのは、ある町内の人たちがソウルオリンピック周年記念でやっているゲームを見に行き、私も仲間に入れてもらったことです。

観光など

最後の研修は「麻浦区婦人福祉館」の見学でした。ここは平日でも昼間婦人部の人たちが料理、美容、裁縫などの実習



▲ホームステイ先での朝食



▲38度線第3トンネル視察後、軍隊と

感想

この研修は一生の思い出になりました。市青年団体連絡協議会の役員としても、PRのしかたなど、たいへんいい勉強になったと思います。これからは白根市の青年活動がよりいっそう活発になるようにがんばりたいと思います。

信濃川、幼い日の夏の思い出

語る人

永井ユリさん

(小坂・五十一歳)



私の思い出 あ那时的場所

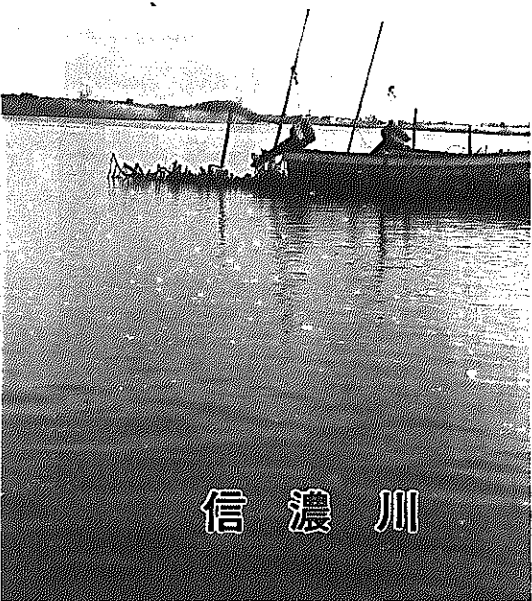
亡き母の実家は下鷺ノ木で、小坂生まれの私は、よく母に連れられて田植えの手伝いやお祭りなどに喜び勇んで出かけたものでした。下鷺ノ木でのいろいろな遊びの中で、私のいちばんの楽しみといえば、母方のいとこや村の仲間たちといっしょに、近くの信濃川に泳ぎに行くことでした。昔の信濃川

は川の汚染などもなく、今の人たちには想像もつかないほど、ほんとうにきれいだっただけです。

その信濃川で、忘れもしない思い出があります。小学校四年の夏のことです。泳ぎに無中になり、深みにはまって流され「もうだめだ……」と思った瞬間、幸いにもいとこが見つけてくれ、助けてくれたのです。今思い返してもゾッとする出来事でした。今ではもう川で泳ぐ光景など目にしませんが、鷺ノ木付近の信濃川をときどき往來するたび、人に言い知れぬ思いでいっぱいになります。

あなたの思い出を お寄せください

「あ那时的場所」は、あなたの思い出を語ってもらうコーナーです。市内をはじめ、市外、県外、海外の心に残るあ那时的思い出を、写真といっしょにお寄せください。あて先は〒950-12 白根市大字白根1235 白根市役所企画調整課 広報広聴係 (☎03373303)です。



信濃川

私の一冊

No.1

類型別番傘川柳一万句集

番傘川柳本社編

もしも近い将来宇宙旅行に、あるいは丹波哲郎さんのガイドで大霊界への旅に、一冊の本の携行が許されるなら、私は迷わず「番傘川柳一万句集」を選ぶ。宇宙船が、あるいは丹波さんのガイドが仮に間違っても鬼さんの住むところへ行つたとしても、すでに戦時中インパール作戦で地獄を見てきた私には決して驚かない。「鬼さんこちら！」と



お招きして、「一万句集」をたたき台に、こんなおもしろいものがあつたのかと、老若男女の皆さんに川柳の良さを理解してもらって、楽しい句会を開きたいものと、真剣に考えている。読書は心の給養である！万物の霊長といわれる人類の修養と幸福の源泉であり、くもほほどにわき出て尽きることが無い——かつて陸軍経理学校入学試験にこのように書いた思い出がある。紆余曲折、おおよそ半世紀を経た今日、図書館通い(毎週四冊のマイ・ペース)で、日々是好日の心境である。

中村尚治さん
(五六の町・74歳)



皆さんの便りをお待ちしています

今月号から新コーナー「私の一冊」を掲載します。このコーナーでは、皆さんの心に残った一冊の本を紹介していただきます。感銘を受けたこと、作者に関することなど、なんでも気軽に書いてください。原稿の長さは400字程度。紙面の都合上、文を短くすることがあります。あて先 白根市役所企画調整課 広報広聴係 (〒950-12 白根市大字白根1235・☎373-2111) または市立図書館 (〒950-12 白根市大字白根1372・☎373-2810)